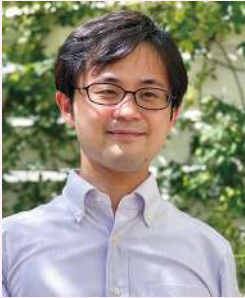


学生相談室から

総合相談窓口 029-853-8430
学生相談受付 029-853-2415

悩みを打ち明けること

人間系 准教授 水野 雅之



長い夏休みが終わり、秋学期が始まって約2ヵ月、だんだんと疲れが見え始める時期かもしれません。新学期のはじめは心機一転、がんばろうという学生さんが多いのですが、同じようなペースで続けるのは、やはり難しいものです。春学期の積み残しがある場合には、だんだんと気持ちの面でつらくなってくる学生さんもいらっしゃいます。

抱えている悩みや問題が複雑になったり、大きくなったりしないうちに、ぜひ周囲の人や専門家の元へ相談に来てほしいと思いますが、悩みを打ち明けることには大きなハードルがあるのも事実です。心理学では、人が誰かに相談を求めることを、「援助要請」とよび、研究が進められてきています。

相談には、①「相談することのメリット（相談すると問題が解決する等）」、②「相談することのデメリット（相談すると心が弱いやつと思われる、秘密を守ってもらえない、相手の負担になってしまう等）」、③「相談しないことのメリット（自分で悩みに立ち向かうことが成長につながる等）」、④「相談しないことのデメリット（悩みが解決されない等）」があり、これらのバランスの中で、相談をするかどうか（援助要請を行うかどうか）が決まると考えられています。普段から、相談することのメリットやデメリットについて、お子さんがどんな考えを持っているのか、お子さんとの会話の中で話題にしてみるのも良いかもしれません。

また、専門家の力が必要だけれども、専門家を利用するか迷っているときもあるでしょう。周囲の人の態度が、専門家を利用するかどうかに影響を及ぼすことがわかっています。お子さんの背中をそっと押すような形で、学生相談室や総合相談窓口をはじめとした、大学内の相談機関の利用を勧めていただければと思います。

学生相談室では公認心理師や臨床心理士といった、心理支援の専門家が学生の皆さんの相談にのっています。何かお子様のことでご心配なことがある方は、総合相談窓口や学生相談室へお気軽にご連絡ください。

紫峰会基金より

令和4年度 紫峰会基金援助金支給報告

令和5年6月2日に開催された紫峰会基金運営委員会にて、紫峰会基金援助金の支給について報告されました。概要は次のとおりです。

援助金項目	金額（円）
課外教育行事援助金	2,648,400
課外活動団体援助金	21,300,000
特別援助金（4団体）	1,118,500
組織助成金 育成指導補助給付 記念品特別支給	115,650
合計	25,182,550

筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/>



紫峰の風送付先変更の連絡はこちら
E-mail: renkei@un.tsukuba.ac.jp 電話: 029-853-2030
本号について、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

紫峰の風 第30号 2023年12月発行

発行 事業開発推進室
編集 学生部学生生活課
学生広報会議
(高橋愛果・比文2年、高田梨々子・創成2年、相楽駿・社工2年、山本彩佳・障害2年、長沼正樹・エシス4年、中村恭輔・人文2年、廣瀬健大・地球3年、齋藤圭祐・医学2年)
学生広報部会
(河原井かれん・人間総合群芸術P2年、高見沢仙美・数物群マテリアルP2年、原すみれ・社会3年、福永拓真・地球3年、榎本陽子・総合1類1年、村松茜里・知識1年)
タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話: 029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

紫峰の風

s h i h o u n o k a z e

筑波大学

University of Tsukuba

第30号 2023年12月

『紫峰の風』は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降る風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められています。



8月5、6日の2日間にわたり、筑波大学の「創基151年開学50周年」記念事業の一環として男子ハンドボール部、男女バスケットボール部によるエキシビションマッチ『TSUKUBA LIVE!』が開催されました。

— 内容 —

雙峰祭、Editor's 2023…………… 2～4頁
KK祭、夏休みアート・マルシェ…………… 5頁
創基151年開学50周年記念式典・イベント、桐の葉日記… 6頁
卒業式・入学式、令和4年度卒業生・修了者の進路状況… 7頁
芸サ連・文サ連・体育会・全代会・医学部会活動紹介 8～11頁
学生相談室から、令和4年度援助金支給報告…………… 12頁

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

秋ABモジュール期末試験	12月21日～27日
冬季休業	12月28日～1月4日
同(東京キャンパス・夜間)	12月24日～1月5日
秋ABCモジュール期末試験	2月7日～14日
同(東京キャンパス・夜間)	1月30、31日、2月3、8、9日
秋Cモジュール期末試験	2月15、16日
秋学期授業終了	2月14日
同(東京キャンパス・夜間)	2月2日
期末試験予備日	2月15、16日
同(東京キャンパス・夜間)	2月6、7日
春季休業	2月17日～3月31日
同(東京キャンパス・夜間)	2月10日～3月31日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月30日

第49回筑波大学学園祭「雙峰祭」

学園祭を終えて ―学園祭実行委員会委員長より寄稿―

今年度の雙峰祭は、4年ぶりに屋外を含めた完全対面で開催いたしました。コロナ禍を超えた新しい学園祭を筑波大学に作り上げるため、委員一同全力の限りを尽くし進み続けて参りました。開学50周年という記念の年に、学園祭の熱気を多くの方にお届けすることができましたこと、誠に幸甚に存じます。こうして無事、雙峰祭を終えることができましたのは、企画団体の方々、大学関係者の方々、雙峰祭にご参加いただいた方々、そして何より筑波大学紫峰会基金を通して日々ご支援いただいております皆様のお力添えあってのものでございます。学園祭実行委員会の長として、そして一人の学生として、皆様の厚いご支援に深く御礼申し上げます。

来年度で雙峰祭は50回目となります。より多くの方々にお楽しみいただけるよう誠心誠意取り組んでいく所存でございます。今後とも弊委員会及び筑波大学学園祭「雙峰祭」をよろしく願いいたします。

(寄稿／令和5年度筑波大学学園祭実行委員会委員長 鈴木暁満・工学システム学類2年)

TSUKUBA COLLECTION 2023

11月3日の前夜祭では、観客でいっぱい石の広場UNITED ステージにて、TSUKUBA COLLECTIONの6人のファイナリストが思い思いのパフォーマンスによるアピールを行った。ミスター部門No.1の増村裕さんは、持ち前の明るさを生かし、音楽に合わせたトークを披露した。No.2の岡本瞬さんは自作の発表資料を用いて、筑波大生の服装について問題提起し、会場の笑いを誘った。No.3の福田匡起さんは、幼いころのピアノ演奏の様子を上映した後、安定感のある歌唱を披露した。No.4の中向井亮さんは、商業施設巡りの趣味を生かし、観客の出身地の最寄りにある施設を見事に言い当てた。

次に、ミス部門No.1の森本ひのきさんは特技のダンスを披露し、振り付けのレクチャーを行いながら観客と一体となって場を作り上げた。最後にNo.2の大川妃菜さんは緊張を感じさせつつも、伸びやかな歌声と切れのあるダンスを披露した。

5日に行われた後夜祭では、投票による最終結果が発表された。ミスター部門ではNo.2岡本さん、ミス部門ではNo.2大川さんがグランプリに輝き、特別賞はミスターNo.1増村さんが受賞した。

(文責／広報部 高見沢仙美・国際マテリアルズイノベーション学位プログラム博士前期課程2年)



後夜祭

雙峰祭を締めくくる後夜祭は、学生団体によるパフォーマンスから始まる。筑波大学応援部WINS、斬桐舞、The Empire of TSUKUBA、メソッドinつくばの計4団体がステージを飾り、観客も手拍子やサイリウムで会場を盛り上げた。続くお笑いライブでは、アイコンヘッド、アインシュタインの2組を迎え、ライブならではの会場を巻き込んだ漫才が繰り広げられた。会場のボルテージも最高潮に達し、いよいよ雙峰祭グランプリの発表だ。最優秀賞は「筑波大学アイドル研究会Bombs!」が受賞した。

後夜祭の最後を彩るのは花火研究会による後夜祭花火だ。ゆめ花火とフィナーレ花火の2部で構成され、ゆめ花火は筑波大学附属病院にて闘病中の子供たちが描いたイラストの花火を打ち上げるといったものだった。花火は音楽に合わせて打ち上げられ、とりわけ大きな花火が打ち上がると会場からは大きな歓声が上がった。

(文責／広報部 河原井かれん・芸術学学位プログラム博士前期課程2年)



雙峰祭グランプリ受賞団体一覧

- 【最優秀賞】筑波大学アイドル研究会Bombs!
- 【特別賞】ステージ部門: KPOPコピーダンスサークルゴグマ(コグマ)
一般部門: 筑波大学ねっしー・自然教育研究会
- 【優秀賞】ステージ部門: アカペラサークルDoo-Wop、斬桐舞
一般部門: アカペラサークルDoo-Wop、全代会有志

企画紹介



喫茶会メイドの土産

次々にご帰宅されるご主人様・お嬢様に、「おかえりなさいませ!」と明るい声を響かせるメイドと執事。5C棟の一角で、「メイドの土産」というメイド・執事喫茶が展開された。出展したのは現代文化視覚研究会。びちびちの新人からベテランまで何人ものメイド、執事が給仕にあたっていた。

提供されるメニューすべてに、隠し味としてご主人様・お嬢様への愛が込められていたという。さあ、このおまじないをかけてあなたもおひとついかが? 「おいしくな〜れ もえもえキュン♡」

(文責／広報部 榎本陽子・総合学域群第1類1年)



地球科学サークルジオネットアース

地球科学サークルジオネットアースは、今年から本格的に活動再開したサークルだ。雙峰祭経験者がおらず、不安も多い中で、より多くの人に地学の魅力を伝えようと、試行錯誤しながら準備を進めた。

当日は雪のペンダントづくりや採集した鉱物や化石展示、地学現象の実験、グッズ販売など様々な企画を行った。来場者1000人以上の大盛況ぶり、多くの方から「綺麗な鉱物が良かった」、「実験が面白い」など好評を得て、良いスタートとなった。

(文責／広報部 福永拓真・地球学類3年)



紫峰会基金援助金目録贈呈



斬桐舞スペシャルステージ



ステージマジックショー



珈琲・俺



筑波大学E.L.L.によるステージライブ



Doo-Wopアカペラステージ



チェス体験会にて、緊張の瞬間



インド雑貨販売〜ここは僕らのカルカッタ〜



学園祭の賑わい



餃子道場



筑波ワッフルファイブ

雙峰祭グルメ

様々な企画が目白押しな雙峰祭。そんな中でも食に注目してみました。ハイレベルな品々の中からいくつか紹介します。
(文責／芸術系サークル連合会広報局長 長沼正樹・工学システム学類4年)

海洋研レストラン〜うみの家へようこそ〜

団体：海洋研究会
商品：シーフード焼きそば 500円

概要：海洋研に関連して、シーフード焼きそばを提供することにしたそうです。お好みで山椒をかけてもらうことができます。味が引き締まるので、山椒ありがオススメということでした。
感想：シーフードをちゃんと感じられる焼きそばで、とてもおいしかったです。山椒があることで味だけでなく匂いもよくなり、箸が進みました。



なんやのフランク

団体：軟式野球部
商品：フランクフルト 300円

概要：フランクフルトが食べたいから提供することにしたそうです。バットに似ているからとかではないんですね(笑)。一度茹でてから焼いているそうです。そうすることで火がしっかり通っておいしくなるということでした。
感想：中はしっとりジューシーに外はパリパリで非常においしかったです。茹での一手間が活きていると感じました。2本買うと500円になるのでお得です。シェアしましょう。



マズくない唐

団体：なまず
商品：ナマズの唐揚げ 500円

概要：霞ヶ浦でナマズが養殖されているのを知っていましたか？私は知りませんでした。そんなナマズの知名度を上げることを目的の一つに、霞ヶ浦の養殖ナマズの唐揚げを提供することにしたそうです。
感想：全く臭みを感じず、厚切りなのでボリュームでとてもおいしかったです。鶏肉の唐揚げを超えてきたなと思いました。霞ヶ浦の養殖ナマズ、有名になってね！



歌留多部の揚げもみじまんじゅう

団体：歌留多部
商品：揚げもみじまんじゅう 300円

概要：歌留多の取り札の裏にもみじのマークがあり、それに着想を得て揚げもみじまんじゅうを提供することにしたそうです。味はあんこと抹茶とクリームがあり、一番人気はクリーム味だそうです。2分で揚がるので回転率が高く、揚げたてを提供できるのが推しポイントということでした。
感想：揚げたてでほどよく温かく、食感が楽しめてとてもおいしかったです。さくさくという音が聞こえるほどでした。



霜月茶会

団体：茶道部和敬清寂社
商品：抹茶とお菓子 500円

概要：歴史あるサークルで、代々雙峰祭ではお茶会を開いているそうです。抹茶は芳香園の寿齢、お菓子は田中清月堂の山茶花を使ったということです。お茶会で使用された道具なども秋を意識したものになっているのがポイントということでした。
感想：お茶会というものにはじめて臨みましたが、ほっと一息つけるいいものでした。お菓子は甘くておいしいうえに見た目もかわいらしく、抹茶は深みのある苦さで本物の「風味」を感じました。



元祖揚げアイス

団体：筑波大学津軽三味線倶楽部無絃塾
商品：揚げアイス 200円

概要：揚げアイスは代々の伝統で、秘伝のレシピでやっているそうです。店舗にも工夫を凝らしていて、今年は任天堂をテーマにコスプレして営業しているということでした。かわいかったです。
感想：ざくざくして、カリッとした衣の中にクリーミーなアイスが感じられ、非常においしかったです。アイスをどうやって揚げているのか不思議です。



Editors'2023



私が『紫峰の風』の制作に携わることになったのは、思えば完全に偶然でした。ものすごく簡単に言うとかじ引きの結果です。今となってはその偶然に感謝しかないです。それはなぜか、この活動がとても面白いからです。取材のため、カメラを持ってイベントに参加し、その様子を撮る、紙面に載せる文章を考える、完成を目指して会議をする、そのどれもこれも偶然によってもたらされたものです。この偶然を後から振り返ったときに運命と言えるようにこの活動をもっと楽しもうと思います。ありがとうございます。
(芸術系サークル連合会広報局長 長沼正樹・工学システム学類4年)



約1年間大学の『紫峰の風』の制作に携わってきたことで、部活しかやっていない私の知らないところでは、他の筑波大生が様々な活動に取り組んでいるということを知ることができました。記事の企画では上手いかわないことも多く大変でしたが、取材を通して多くのことを経験することができました。
(体育会広報局長 廣瀬健大・地球学類3年)



私は、他の皆さまと同様偶然にも広報局長になりこの『紫峰の風』の制作に携わらせていただきました。制作に係る作業で様々な団体の活動内容や組織について改めて把握でき、普段会うことのないような方々と連絡を取り、カメラの使い方や編集の過程について

学ぶ良い機会となりました。このような機会はひとえに筑波大学、ご支援いただいている皆様方のおかげです。最後までこの仕事を悔いの無いよう全うさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
(文化系サークル連合会広報局長 相楽駿・社会工学類2年)



医学部会広報局長の齋藤圭祐です。医学の体育会部活では毎年持ち回りで執行委員という委員を選出し、その委員から広報局担当が選出されます。たまたま自分の代でその委員の担当が自分の部に回ってきて、たまたま自分がやることになり、広報局の担当になって記事を集めています。任期は1年で、来年の1月には次の代と交代の予定です。短い間ですが最後までよろしくお願いいたします。
(医学部会広報局長 齋藤圭祐・医学類2年)

私は全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議の広報委員として『紫峰の風』の制作に携わっています。文章を書くことや紙面の企画をすることが好きなので、この活動を通して自らの趣味を形にできることを誇りに感じます。筑波大学や皆様のご支援の上でこのような活動をさせて頂ける喜びを噛みしめ、これからも本誌の制作活動に尽力していきたいです。
(全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議広報委員 高橋愛果・比較文化学類2年)

KK祭

KK祭は、文化系サークル連合会(以下、文サ連)に所属するサークルと芸術系サークル連合会(以下、芸サ連)に所属するサークルの交流の機会を設け、親睦を深める目的のもと9月17日に実施されました。ドイツ語で「文化=Kultur」「芸術=Kunst」から「Kultur Kunst Festival」、通称KK祭と銘打ち、「文サVS芸サ」をコンセプトとしてイベントを企画しました。当日は計11団体が、素晴らしい企画展示や発表を行ってくださいました。

ステージ発表では、落語の演目の発表や、合唱曲やJAZZの演奏、お笑いライブなどが行われ、屋内展示ではテラリウムや、鉄道模型、書道作品や映画のレビュー、自作ゲームの展示・体験が行われました。企画担当としては、互いに普段の活動成果を見合うことが、少しでも活動の刺激になればと思っております。

今回は、初の試みということで運営側の至らないところも多々ありました。今後同様のイベントを実施する際にはより良い運営を心がけるとともに、より多くの方々に参加していただける活発なものにできたらと思っています。そのためには文サ連、芸サ連の所属団体の連携がより不可欠なものとなると考えております。コロナ禍によって薄れてしまった活気を取り戻すべく、ご協力いただけますと幸いです。

(寄稿／文化系サークル連合会企画局長 岩本樹里・地球学類2年)

参加者の感想

- 文サ芸サ合同イベントということで、普段関わりのないサークルと交流できて楽しかったです。自分からは興味をもたないサークルの展示を見ることができたり、私達自身も普段やらない活動に挑戦してみたり、有意義なイベントでした。(人文2年H.Sさん)
- 普段、他のサークルの活動内容がよく分からず、話す機会もなかったので今回のKK祭は今まで深く気にしたことがなかった文サ連、芸サ連というものを実感できるイベントになりました。(地球2年O.Fさん)



書道部の展示



JAZZ愛好会の演奏



つくりウムの展示



筑波大学落語研究会の寄席

夏休みアート・マルシェ2023

7月29、30日の2日間、体育・芸術エリアにて筑波大学とつくば市、(公財)つくば文化振興財団の共催で「夏休みアート・マルシェ2023」が開催された。

芸術系の吉田奈穂子先生、諏訪智美先生、宮坂慎司先生と特命教授の太田圭先生および学生の協力のもと、絵の制作、メダルをつくる表現活動、学生の作品を対話しながら鑑賞するイベントが行われた。

その中の「リボンアートボール」は、廃棄される予定のボールに絵を描き、世界に一つの作品として生まれ変わらせる企画であった。ボールに絵を描くという普段体験できない活動であったが、学生のアシストもあり、子どもたちの豊かな想像力のもと多様な作品が生まれていた。

(文責／広報部会 河原井かれん・芸術学学位プログラム博士前期課程2年)

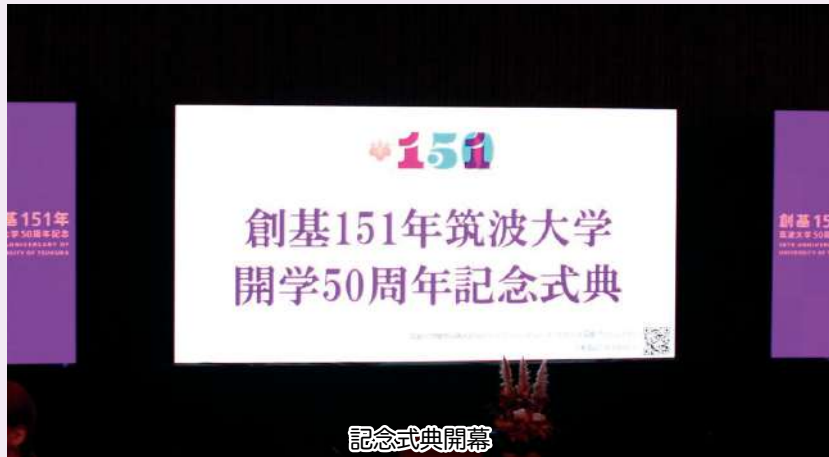


つくば美術館での展示

創基151年筑波大学開学50周年記念式典・イベント

筑波大学は、日本最初の高等教育機関の一つとして誕生した師範学校から続く長い伝統と実績を受け継ぎつつ、新構想大学として出発し、10月1日で開学50周年、そして創基151年を迎えた。これらを記念して9月30日にはつくば国際会議場で記念式典が行われ、10月1日には筑波大学学生会館やその周辺で記念イベントが開催された。両日ともに錚々たる顔ぶれの講演やハイレベルのパフォーマンスなどが盛りだくさんで大いに盛り上がり、非常に感動的で、筑波大学の益々の発展を確信できた。「IMAGINE THE FUTURE.」を合言葉に突き進んできた筑波大学は、それを発展させた「DESIGN THE FUTURE, TOGETHER.」を合言葉に新たな歩みを進めて行く。そんな筑波大学の新たなスタートに立ち会えたことを誇りに思う。

(文責／芸術系サークル連合会広報局長 長沼正樹・工学システム学類4年)



記念式典開幕



筑波大学管弦楽団・混声合唱団による「常陸野の」演奏



学生特別企画「学生が創る筑波大学の未来」



左からくまモン、コズミックくん、永田学長
2023年10月1日撮影 ©2010熊本県くまモン



Indonesian Student Association in Ibaraki のパフォーマンス



体操部のパフォーマンス

令和5年度 筑波大学秋季卒業式・入学式

令和5年度筑波大学秋季卒業式・大学院学位記授与式

9月25日、令和5年度筑波大学秋季卒業式・大学院学位記授与式が学生会館講堂にて挙行された。爽やかな秋晴れの空の下、卒業生・修了生とその家族が集い、それぞれの門出を祝福した。式典前後には学生会館や石の広場で記念撮影や歓談が行われていた。

(文責／広報部会 高見沢仙美・国際マテリアルズイノベーション学位プログラム博士前期課程2年)



学位記授与

令和5年度筑波大学秋季入学式

9月29日、令和5年度筑波大学秋季入学式が学生会館講堂にて挙行された。当日の天候は曇りがちではあったが、この大学で学ぶのだ、と晴れやかな表情をした学生の姿が多く見られ、新たな風が大学へと吹きこんだ。彼らがこれから歩む軌跡の第一歩を目に焼きつける日となった。

(文責／広報部会 榎本陽子・総合学域群第1類1年)



学長式辞

令和4年度卒業生・修了者の進路状況

学群・学類 ※1 ※2

学群・学類	卒業生	進学者	就職者	就職者の内訳						その他	
				企業	教員	公務員	独法等	研修医	研究生等・留学	資格・試験等受審	他
人文文化学群	人文学類	117 [2]	24	76 [2]	54 [2]	4	16	2	2	15	
	比較文化学類	78 [1]	12	57 [1]	46		8	3	1	8	
	日本語・日本文化学類	37 [1]	6	29 [1]	18	5	6		1	1	
社会科学学群	社会学類	104 [3]	7	74 [2]	64	1	8	1	23 [3]		
	国際総合学類	83 [5]	17	54 [5]	48	2	4		12 [3]		
	教育学類	34 [2]	3	26 [2]	17	8	1		1	4	
人間学群	心理学類	52 [1]	15	25 [1]	23		2			12	
	障害科学類	36 [1]	15	17 [1]	15	1	1			4	
	生物学類	87 [2]	69 [2]	12	9	1	2			6	
生命環境学群	生物資源学類	131 [9]	94 [8]	31	23		8			1	
	地球学類	51 [3]	38 [3]	11	7		3	1		2	
	数学類	32 [1]	18 [1]	11	8	3				3	
理工学群	物理学類	49 [1]	39	4	3		1			6	
	化学類	50 [2]	42	6	4		2			2	
	応用理工学類	127 [2]	116 [2]	7	7					4	
情報学群	工学システム学類	132 [2]	115 [2]	15	12		3		1	1	
	社会工学類	126 [2]	74 [2]	42	38		4			10	
	情報科学類	107 [3]	70 [3]	32	31		1			5 [1]	
医学群	情報メディア創成学類	62 [2]	41	15	14		1		2	4	
	知識情報・図書館学類	104 [3]	21 [2]	70	60		7	3	2	11 [1]	
	医学類	135 [3]	1					134			
芸術学群	看護学類	74 [3]	11	57 [1]	47 [1]	4	6			6 [2]	
	医療科学類	39 [2]	26	12	10		1	1			
	体育専門学群	240 [4]	56	150	130	7	13		1	33	
学群合計	芸術専門学群	102 [4]	36 [3]	55	52	1	1	1	1	10	
	学群合計	2194 [51]	968 [32]	891 [5]	743 [5]	37	99	13	134	12 [2]	189 [12]

※1 [] は、留学生を内数で示す。 ※2 グローバル教育院は少人数のため表は省略しているが総数には含む。

大学院(修士・専門職学位) ※1

	修了者	進学者	就職者	就職者の内訳						その他	
				企業	教員	公務員	独法等	研究員	職務復帰	帰国	研究生等・留学
人文社会科学研究群(博士前期課程)	123 [67]	29 [11]	42 [13]	29 [12]	8	3 [1]	2			11 [11]	30 [21]
ビジネス科学研究群(博士前期課程)	48	3								43	2
人文社会ビジネス科学学術院(専門職学位課程)	23									22	1
数理物質科学研究群(博士前期課程)	273 [35]	38 [15]	215 [19]	202 [8]	5	6 [1]	2		2	10 [10]	8 [1]
シス理工学研究群(博士前期課程)	469 [105]	57 [30]	364 [43]	353 [42]	6 [1]	5			6	25 [25]	1 [1]
生命地球科学研究群(博士前期課程)	339 [111]	64 [34]	217 [22]	192 [11]	4	12 [1]	9	1	20 [19]	33 [33]	4 [1]
理工情報生命学術院(博士前期課程)	1		1								
人間総合科学研究群(修士課程)	43 [9]	11 [5]	24	22			2		3	3 [3]	2 [1]
人間総合科学研究群(博士前期課程)	464 [76]	65 [16]	241 [26]	163 [24]	49 [2]	21	8	1	88 [29]	29 [29]	2 [5]
人間総合科学学術院(修士課程)	15 [9]		6 [2]	5 [1]		1 [1]				7 [7]	2
研究科等旧組織	30 [7]	1	16 [4]	16 [113]					4	3 [3]	6
修士合計	1828 [419]	268 [111]	1126 [120]	983 [113]	66 [3]	49 [3]	28 [1]	2 [1]	199 [31]	121 [121]	3 [1]

大学院(博士) ※1

	修了者	進学者	就職者	就職者の内訳						その他	
				企業	教員	公務員	独法等	研究員	博士特別	職務復帰	帰国
博士合計	454 [153]	166 [55]	95 [33]	43 [13]	7 [2]	21 [7]	62 [31]	22 [13]	150 [15]	34 [34]	20 [5]

採用企業ランキング

順位	企業名	人数	順位	企業名	人数
1	ヤフー株式会社	23	6	株式会社野村総合研究所	12
2	日本電気株式会社	17	7	ソフトバンク株式会社	11
3	アクセンチュア株式会社	16	8	富士通株式会社	10
4	株式会社エヌ・ティ・エー(NTTデータ)	13	9	ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	9
4	株式会社日立製作所	13	9	楽天グループ株式会社	9

紫峰会基金に寄附してくださった皆様へ

多くのご寄附をいただきありがとうございます。皆様からいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金として使用させていただきます。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をより充実させることができました。現在課外活動は、感染対策等による活動制限がなくなり、コロナ禍前の活気や風景を取り戻しつつあります。厳しい時期を抜け、各団体はさらなる活動を目指してまいりますので、今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

課外活動団体一同

芸術系サークル連合会活動紹介

JAZZ愛好会



2022年度雙峰祭「FULLHOUSE」2022年11月6日撮影

こんにちは。私たちはJAZZ愛好会です。主にコンボジャズを演奏する筑波大学公式サークルで、40年近く続いている毎週金曜日のジャムセッションや年間数回行われる定期ライブ、様々なイベントを通して音楽を楽しんでいます。

私たちの主な活動として、毎週金曜日18:00頃～21:00に文化系サークル会館3階 音楽室Dにてジャムセッションを行っており、月末にはミーティングを行っています。毎年夏休みの合宿では数日間泊まり込みで仲間と切磋琢磨し高め合い、最終日にステージで演奏を行います。雙峰祭ではJAZZ喫茶「FULLHOUSE」を出店したり、また演奏依頼があった際には、レストラン・バー・結婚式場等外部での演奏活動も行ったりしています。

ほとんどの部員は大学からジャズを始めています。音楽と真摯に向き合い、ジャズの楽しさを広めるために日々活動中です。

(寄稿/JAZZ愛好会副会長 高尾真修未・
知歳情報・図書館学類3年)

男声合唱団メンネルコール



第5回単独演奏会直後に指揮者の先生と共に 2023年5月20日撮影

私たち男声合唱団メンネルコールは、筑波大学の課外活動団体の中で唯一の男声合唱団です。本年度は新たに3人の新入生を迎え、学類1年生から修士(博士前期課程)2年生までという幅広い学年の14人で合唱に取り組んでいます。

一昨年度まではコロナの影響もあり、活動も少なく存続が危ぶまれる時期もありました。しかし、昨年度からは夏や春などのミニコンサートといった形で徐々に活動を再開し、今年の5月20日にはおよそ3年ぶりとなる単独演奏会を開催するなど、現在では精力的に活動しています。

また外部の合唱団体との交流も多く、OBや演奏会で指揮をお願いした外部の先生などのご縁で、つくば市や近隣自治体の合唱団に参加し、演奏会に出演している団員も複数います。

今後も他大学の合唱団との合同演奏会や次の単独演奏会などを見据えて活動を続けて参ります。

(寄稿/男声合唱団メンネルコール 神野智樹・
情報学学位プログラム博士前期課程2年)

THK筑波放送協会



やどかり祭での様子 2023年5月27日撮影

THK筑波放送協会はアナウンス局・ラジオ制作局・映像制作局の三部門に分かれており、会員はそれぞれの局に所属しています。各局での活動としては、アナウンスの練習や作品制作、コンテストの出場などが挙げられます。中でも、ラジオつくばにて放送中の「THKラジオ学類」が代表的な活動です。また、活動は会内に留まらず、やどかり祭や雙峰祭をはじめとする学内の大規模行事や、学外で開催されるイベントで音響・照明等のスタッフを務めることもあります。ここ最近の活動としては、9月の長期休みを利用し、山中湖周辺の施設で新入生の研修合宿を行いました。ラジオ収録や映像配信のための主な機材の使い方やアナウンスの発声などを指導したほか、BBQや花火といったイベントで新入生同士の仲を深めることができ、充実した合宿となりました。

(寄稿/THK筑波放送協会会長 佐藤悠大・人文学類3年)

邦楽部



「令和4年度卒業演奏会」つくば市アルスホールで 2023年3月5日撮影

私たち邦楽部は、箏・三絃・尺八・津軽三味線・二胡などの伝統楽器を扱う音楽サークルです。普段は、年に2回の定期演奏会や雙峰祭での演奏に向けて、外部講師の指導を受けながら練習に取り組んでいます。演奏会で取り組む曲は、古典曲から現代曲やJ-popのカバーまでさまざまです。部員らの楽器歴もまちまちですが、初心者も経験者も一緒になって合奏を楽しんでいます。

邦楽部ではこの数年で部員の数が大きく増加し、取り組める曲の幅も広がりました。今後、邦楽や伝統楽器の魅力をより広く発信していけるように、より一層の練習を積んでいきたいと思っています。現在は3月に開催予定の定期演奏会に向けて、着々と練習や準備を進めているところです。邦楽に少しでも興味がある方がいれば、演奏を聴きにきていただけたらとても嬉しいです。

(寄稿/邦楽部代表 宮崎巴葉・生物資源学類3年)

文化系サークル連合会活動紹介

T.A.S.C.



普段の活動風景 2023年10月14日撮影

私たちT.A.S.C.(タスク)は週に2回文化系サークル館に集まってボードゲームで遊んでいるサークルです。所蔵する数多くのボードゲームの中からその時に遊びたいものをみんなで選んで遊んでいます。

ボードゲームの醍醐味は目標達成への戦略を考えることにありますが、相手や運によって有効な手立てが変わってくるのが面白いところです。またテーブルを囲んで実際に駒やサイコロを動かして会話をしながらゲームをしていると、オンラインゲームや電子ゲームなどとはまた異なる楽しみや発見を得ることもあります。

ボードゲームの他にも不定期でTRPGを遊んでいます。TRPGとは自分のつくったキャラクターのロールプレイングをしつつ、会話の中で織りなすその場限りの物語を楽しむゲームです。TRPGの仲間を求めてサークルの戸を叩いてくださる人も多くいます。例年は理系の男子がほとんどでしたが、現在は様々な所属から人が集まり、男女半分ずつの割合となりました。

(寄稿/T.A.S.C.代表 西宮知世・芸術専門学群3年)

歌留多部



職域大会の様子 2022年8月27日撮影

歌留多部は、競技かるたの大会に出場することを目的として、毎週火・木・日曜日に活動しています。普段は試合形式の練習を行っており、自分の都合に合わせて自由に参加できます。先輩・後輩、初心者・経験者関係なく和気あいあいとした雰囲気特徴です。

サークル内のイベントも充実しており、今年の8月には東京大学や早稲田大学と合同で2泊3日の合宿を開催しました。また仙台に遠征し、東北大学との合同練習も行いました。このようにかるたを通じた他大学との交流も盛んです。

さらに歌留多部は数々の大会で入賞しています。今年の9月に行われた、かるたの大学日本一を決める大会で、筑波大学はベスト8という成績を収めました。また個人においては、今年からかるたを始めた人が既に大会で入賞している実績があります。競技かるたは初心者の方でも活躍できる、とても魅力的な競技です。

(寄稿/歌留多部部長 小橋剛真・医学類3年)

野生動物研究会



山奥の沢でサンショウウオの撮影をするやどけんメンバーたち 2023年6月30日撮影

私たち野生動物研究会(通称:やどけん)は、メンバーが各々好きな生き物の観察、撮影、採集等を行っています。毎週水曜日には文化系サークル館に集まって、その活動報告を行ったり生き物の情報交換を行ったりするミーティングを、対面とオンラインの両方で開催しています。また、春と夏には南西諸島などの遠方で合宿を行い、普段は見られない生き物たちの観察をします。さらに年に2回、撮影した生き物の写真を使ってフォトコンテストも行っています。

やどけんには動物や菌類、植物に至るまで様々な生き物好きが集まっています。自分が好きな生き物について語り合うことができますし、自分が知らなかった生き物を新たに知ることもできます。今生き物が好きな人や、これから生き物について知りたい、詳しくになりたい人が集まるサークルです。

(寄稿/野生動物研究会会長 宮田将斗・生物学類3年)

つくば鳥人間の会



2023年度機体「紫峰」2023年7月29日撮影

つくば鳥人間の会は、毎年琵琶湖で開催されている「鳥人間コンテスト」への出場を目指し、人力飛行機を製作している団体です。このコンテストは、全幅30メートルの飛行機を人が漕ぐ力だけで飛ばし、飛距離を競うものです。会員十数人で、夏休みから翌年の4月ごろまで機体を製作し、5月から7月にかけて近くの飛行場で試験飛行をして、7月末の鳥人間コンテストに臨みます。今年7月には、4年ぶりに鳥人間コンテスト本戦出場し、飛距離192.55メートルという結果を収めました。結果は悔しいものとなりましたが、1年かけて仲間と作り上げた機体が大空へ飛び立つ瞬間は、結果以上に何ものにも代えがたい経験となりました。現在は、来年の大会への出場を目指し、また新たな機体製作に励んでおります。今後とも皆様の応援をよろしくお願いいたします。

(寄稿/つくば鳥人間の会代表 水田蓮・情報科学類2年)

体育会活動紹介

アルティメット同好会



富士山を眺めながらの夏合宿 2023年8月20日撮影

私たちは毎週土・日・月曜日に活動し、アルティメットを行っています。アルティメットは、1チーム7人で構成し、100m×37mの広大なコートを舞台に行われる、ディスクを用いた競技スポーツです。

主な活動としては、練習や他大学との練習試合などを通して技術を高め、各地で開かれる大会に参加しています。目標は夏の大学選手権での本選に出場することです。そのために、自分たちの強みを理解してそこを強化したり、相手チームの分析をして弱点を見つけたりして勝つことに貪欲な姿勢で日々練習に励んでいます。そのおかげもあってか、今年の大学選手権の予選では本選が狙える上位リーグに進出することができました。残念ながら力及ばず本選出場の目標は達成することができませんでしたが、来年こそ達成できるようチーム一丸となって邁進していきたいと考えています。

(寄稿／アルティメット同好会主務 北嶋奨大・応用理工学類3年)

鹿島神流武道部



第54回鹿島神宮奉納演武大会にて鹿島神流演武杖術 2023年6月11日撮影

「鹿島神流」とは、古来より鹿島神宮に伝わる「鹿島の太刀」を源流とする上級武士の武術です。当部活動はその保存と普及を目的としています。

現在の部員数は約30人で、学群生だけでなく大学院生や留学生も所属しています。また、コロナの5類引き下げ以降、土曜日には学外のOBOGも稽古に参加しています。

活動内容としては、剣術と柔術を中心に薙刀術・懐剣術・抜刀術といった日常的な稽古に加えて、学内では新歓期間や雙峰祭で演武を披露し、学外では鹿島神宮などの神社で演武を奉納しています。更に今年度は3年ぶりに部員全員で流派が主催する夏合宿に参加しました。

コロナ禍の活動においては苦しい思いも多々ありましたが、部員たちが協力し創意工夫することで、今まで稽古を続けていくことができました。今後も、業を磨くのは勿論のこと、目の前の物事に向き合う力が育んでいけるよう、日々の活動に励んで参ります。

(寄稿／鹿島神流武道部主務 安富将吾・生物学類3年)

弓道部



大東文化大学女子定期戦にて 2023年7月16日撮影

体育会弓道部は、日置流印西派浦上系を受け継ぎ、稲垣源四郎先生を師範として1970年に創設されました。現在は蓬矢館弓道場にて、約40名の部員で日本一を目標に活動しています。初心者や留学生も多数在籍し、体育専門学群以外の学群に所属する学生が多く試合で活躍していることや、部員の海外派遣など国際交流が盛んなことが特徴です。毎年、関東大会や選抜、全日本インカレなどに出場していますが、現在は北関東ブロック1部のリーグ戦に参加しています。10月末に開催された決勝大会では中・南関東代表校に勝ち、王座決定戦への出場を決めました。また、9月には流しそうめんを行いました。竹を割ってそうめんを流すだけでなくフルーツポンチやポップコーンも楽しみ、夏の思い出作りをすることができました。

SNSで随時情報発信中ですのでぜひチェックしてください！

(寄稿／弓道部主務兼代表責任者 齋木美早紀・生物資源学類3年)

体操部



World Gymnaestrada 2023 2023年7月31日撮影

私たち体操部は体操競技や新体操とは異なる、一般体操という体操に取り組んでいる部活です。競技性がなく、身体を動かすこと自体を楽しみ、自らの動きの質を高めていくという活動を行っています。具体的に、身一つで動く徒手体操や組立て体操、ラートと呼ばれる大きな鉄でできた器具・Gボールや手具など様々なものを用いた体操、さらに想像力を働かせて新たな手具を見つけ出し動きを生み出す発想を用いた体操などを行い、体操作品として学内外で発表しています。今夏にはアムステルダムで行われた一般体操の4年に1度の祭典、「世界体操祭」に参加してきました。昨年度から約1年間、試行錯誤を重ねて部員全員で作り上げた作品を大きな舞台で発表することは、普段味わうことのできないとても貴重な体験となり、学び多い遠征でした。

今後も部員一同、よりよい体操を求めて日々活動に励んでいきたいと思っています。

(寄稿／体操部主務 黒澤瑤季・体育専門学群3年)

医学部会活動紹介

医学ゴルフ部



普段の活動風景 2023年7月14日撮影

医学ゴルフ部は現在、100人を超える部員が所属しており、毎週月水金の週3回、部員それぞれが目標に向けて練習に励んでいます。月に1回、大勢の部員でコンペを行う月例会が開催されたり、他大学との交流コンペ、スキー・スノボ合宿などの季節に合わせた行事も開催され、非常に楽しく活動しています。

活動の制限が緩和され、3月に行われた春大会では、男子団体が準優勝、女子団体が4位と喜ばしい成績を収めることができました。次年度の東日本医科学生総合体育大会(以下、東医体)に向けても、部員共々切磋琢磨し合いながら日々努力しております。

今後も部員一同、東医体優勝を目標に、また楽しくゴルフライフを送ることを目標に、日々努力していきますので応援よろしくをお願いします。

(寄稿／医学ゴルフ部主将 大塚雄貴・医学類4年)

医学弓道部



第122回関東医科学生弓道大会(於埼玉県立武道館) 2023年5月27日撮影

医学弓道部は男子17名、女子24名の計41名で楽しく真剣に弓を引いています。弓道の8つの基本動作である「射法八節」を正しい形で体に覚えさせるための素引きや巻藁練習をはじめ、的前練習や試合形式で行う「立」の練習を中心に行っています。正規練では外部コーチにご指導いただいたくなど非常に恵まれた環境で活動させていただいています。正規練以外にも自主練、朝練に参加するなど、部員一人ひとりが高い向上心を持って活動しています。

今年度は新たに17名の部員を迎え、それに伴い部員同士での指導体制をより一層強化しました。部員同士での助け合いの姿勢を大切に、課題を見つけ合いながらより良い射ができるよう頑張っています。

(寄稿／医学弓道部副将 仁木さくら・医学類3年)

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議活動紹介

International Day 2023

筑波大学が開学50周年を迎えた10月1日、大学会館にてInternational Day 2023というイベントが開催されました。筑波大学ならではの国際色の豊かさを活かし、21の国や地域の学生が自国の魅力を詰め込んだブースを出展しました。

私は日本ブースの担当として、メイドカフェを再現したブースを作成しました。メイドカフェといえばサブカルチャーやアンダーグラウンドな印象を強く抱かれがちですが、いまや日本のポップカルチャーの1つとして位置付けられています。「メイド」というコンテンツが国内外を問わず人気を博している理由は、見た目の印象の強さだけでなく、そこに日本らしい精神が表れているからだと思います。イギリス・ヴィクトリア朝時代に生まれたメイド服を、「使用人」というイメージから切りはなし、スカートの丈を短くしたりして日本の「萌え」文化として取り入れた、というプロセスは、日本人の持つ異文化への寛容さを表しています。

実際にInternational Dayにおいて、多くの留学生に「これは日本ではなくヨーロッパの衣装ではないのか」「アニメのキャラクターの服装か」と尋ねられる場面がありました。日本独自のアレンジが加わっていると話すと、誰もが日本らしいと納得してくれました。また、インドネシアから来たという男の子が、自国のコスプレイベントでメイド服を着た写真を見せてく

れました。文化が様々な形で世界中に広まっていくのだと身をもって感じるすることができました。

当イベントに参加し、留学生に日本の魅力を伝えることができたのはもちろん、自らも多くの学びを得ることができました。多様なルーツを持つ学生と同じキャンパスで学べることの貴重さと喜びを噛みしめ、これからの大学生活に励んでいこうと強く感じました。

(寄稿／全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議広報委員 高橋愛果・比較文化学類2年)



International day 2023